しあわせのペンリレー No.１４

～　ここに　いる　～

　地元の子どもたちともっと関わりたいという思いがますます高まっている。
　地元での教員を定年で退いてから３年が経ち、その後いただいているいくつかの仕事のために、鳥羽市神島から紀宝町鵜殿まで三重県の南部地域全体を行動範囲としている。だからこそ、あらためて自分の地元に腰を据えたいという気持ちが強くなってきたのかと自分を俯瞰する。
　小学生時代の地域での体験は大切で、それらは自らの「原風景」となってその後の人生に大きく影響していくと信じている。また、私がそうであるように、今の子どもたちにも、自分の地域で育ったことを財産として生きていく「快感」を味わって欲しいと願っている。
　私の地元では、地域の伝統行事である「お頭神事（獅子舞）」の際、地元の子どもたちと数回、夜に寄って篠笛や太鼓の練習をする。そのときのいろいろな話のやりとりはとっても楽しい。
　地域社会の発展とか、過疎から救うとかといった、大義があるわけではないが、私自身のため、子どもたちの何となく有意義な将来のために、自分の身辺から出発する「やりたいこと」を、身の丈に応じて、子どもたちとともにやっていきたいと考える。
　そのために、とにかく「ここにいる」、居続ける・住み続ける・関わり続けることで、柔らかく強い存在になることを目指している。

大学特任教授・弘済会推進員　　小山和彦